第3345号（昭和46年12月3日第三種郵便物認可） 日刊第17244号

市民タイムス

安曇野

発行所／市民タイムス：本社／〒390-8539松本市大字島立800番地
TEL（0263）／受付47-7777 編集47-7774 広告48-2000 販売47-4755 ©市民タイムス2023年
FAX（0263）／受付48-2422 編集47-1654 広告47-8585 販売48-2422 支社／安曇野・塩尻 支局／長野・木曽

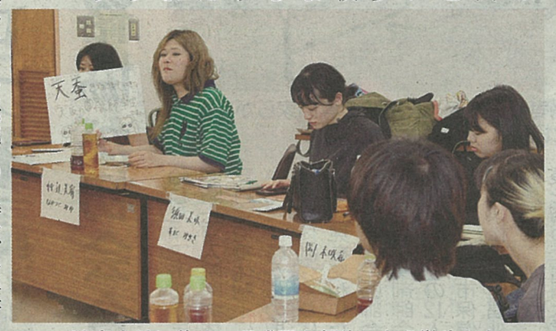
安曇野支社／〒399-8304安曇野市穂高柏原2684
TEL（0263）82-0001 FAX（0263）82-0010

天蚕糸活用 10人が知恵

9校参加 プラン提案へ市内で学習

服飾系の大学や専門学校の学生が、安曇野市の「穂高天蚕糸（てんさんし）」を活用した新たなビジネスプランを提案するコンテストが3年目を迎えた。参加校は初年の3倍となる9校に拡大し、学生10人が3日までの3泊4日で市内に滞在して天蚕糸について学んだ。学生たちは2人ずつのチームに分かれ、来年2月の審査会までにビジネスプランを構築する。初となる商品化が実現するか注目される。

（赤羽啓司）



穂高会館に集まって成果を報告しあう学生たち

学生たちは3日、自転車で市内を巡り、市民に来年2月の審査会のチケットを配った。審査会でチーム名が記載されたチケットが使われると点数が加算されることから、審査会の日時などを手書きした厚紙を使ってPRしたり、手分けして広範囲を巡ったりと工夫を凝らしていた。

チケット配布後は穂高会館に集まって成果を報告し、ビジネスプランの検討に着手した。東京、愛知、大阪、京都、福岡と広範囲から参加していて、今後はテレビ会議システムを使い打ち合わせを重ねる。天蚕糸の認知度向上が目的の一つで、チームごとに写真や動画を投稿できる「インスタグラム」を使った発信にも努める。

天蚕糸に初めて触れる学生が多く、福岡市の香蘭ファッションデザイン専門学校2年・堤美音さん（19）は「天蚕を使った商品は大人向けが多い。より若い人向けのデザインがあればもっと広がるのでは」と話していた。堤さんとチームを組む、筑北村出身の村田充生さん（21）＝文化学園大学4年＝は「伝統をリスペクトしつつ、革新を与えていくのが使命だと思う」とし、海外にも目を向けたビジネスプランを構想していた。

私立高校助成 市に陳情

中信の協議会「保護者の負担深刻」

中信地区の私立高校7校で組織する中信地区私学助成推進協議会は3日、安曇野市と市議会、市教育委員会に対し、「保護者の学費負担は深刻な状況が続いている」などとして私立高校に対する公費助成を陳情した。

松本国際、エクセラン、松本第一の3校からPTA関係者や校長ら8人が市役所を訪れた。同協議会は陳情書の中で、物価高騰の影響や生徒数の急減期で学校経営が厳しいことなどを指摘。▽経営費補助の継続と増額▽教育施設・機器補助の拡充▽就学支援金制度の拡充と私学助成の増額に関して国・県に意見書を提出することーの3点を要望した。

市は、市内在住の私立高校生1人につき年1万円を運営費補助金として各校に補助しており、本年度は557人分を対象とする。太田寛市長は「これは今後も継続するのでご安心を」と述べた。市議会の平林明議長は「私学振興のため必要に応じて関係機関に要望していくことは重要。しっかり審議して対応したい」と応じた。

太田市長に陳情する松本国際高校の清水PTA副会長（右）

松本国際の清水文子PTA副会長は「学費負担が大きくなる中で私学補助は助かっている」とし、同校の鈴木徳夫校長は「私学振興のためにご理解とご協力を」と求めた。

同協議会は8日に塩尻市、28日に松本市に陳情を予定する。

（宮沢 一）

あづみの公園堀金・穂高

ジニア22万本 咲き競う

安曇野市の国営アルプスあづみの公園「堀金・穂高地区」でジニアの花が見頃を迎えている。里山文化ゾーンの棚田に22万株が植わっており、赤、白、黄色など色とりどりに咲き競っている。

里山に華やかな景観をつくっているジニア

堀金口付近と棚田エリア最下段の2カ所計1万2000平方㍍を彩っている。和名・百日草の通り開花期間が長く、9月中旬まで楽しめるという。棚田エリアでは間もなく見頃になるヒマワリとの共演も楽しめる。

同公園管理センターの企画広報担当・遠藤茂樹さんは「色鮮やかなジニアを楽しんでほしい」と語る。

（宮沢 一）

花き品評会 16人が114点

市役所ロビー

JAあづみの「第44回花き品評会」が3日、安曇野市役所東側ロビーで、2日間の日程

色鮮やかな花々が並ぶ会場